

アジアの渡り性小鳥類、市民サイエンスと 保全の推進

活動地域  アジア広域



課題

過去数十年で、いくつかの陸鳥の種が減少しているが、多くのアジア諸国では、こうした減少について把握すらされていない。

目標

越冬地を含めたアジア全域で小鳥類の基礎的なモニタリングが開始され、保全に向けた体制が整備される。



今後の展望

アジアの陸鳥保全計画の立案に向けて、関係各国において保全計画の草案作成を進める。また保全に向けたプラットフォームの強化を図るため、より多くの研修と情報共有の機会を提供していく。

ひろげる助成

1年目

調査研究

活動内容と成果

陸鳥モニタリングの技術研修とネットワーク強化を図るため、アジア諸国の研究者・調査員向けの研修会を開催し、41人が参加した。また普及啓発を兼ねた重要種のモニタリングを目指し、2022年秋から翌春にかけて実施中の市民参加プログラム「越冬期のホオジロ類カウント」では、ミャンマー・タイ・カンボジア等から、ホオジロ類の個体数と重要サイトのデータが集まっている。普及・情報プログラム「季節前線ウォッチ」では、アジア北部各国（ロシア、中国、韓国等）向けに4か国語でリーフレットを作成した。



タイの野外調査風景
(ホオジロ類カウント)

東南アジア研修会
参加者

41人

越冬ホオジロ類
カウントの参加国

8か国

今年度計画の達成度

75%

全体計画の達成度

50%

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

新型コロナウイルス禍により海外渡航が制限され、対面で予定していた会合をオンラインに切り替えざるを得なかった。

■ 工夫した点

アジア諸国の連携を図るだけでなく、アフリカ-欧州（ユーラシア）フライウェイとも協力し、経験の共有を進めた。



〒186-0002

東京都国立市東1-4-28 篠崎ビル
302

HP: <http://www.bird-research.jp/>